友達を失ったり，友達ができたり

レアは，また新しい友達を見つけられるでしょうか？

教会機関誌
マリッサ・デニス
（ほんとうにあった話をもとに書かれました）

レアは３年生の教室を見回しました。つくえはきちんとならび，派手なポスターがかべにかかっています。ほかのほとんどの子供たちは友達と話していました。

レアはつくえの前にすわりました。このクラスには，知っている人がいません。３年生になったら新しい友達を作れるといいなあと思っていました。

「ねえ。」

レアが顔を上げると，女の子がとなりにすわりました。

「わたしはアンナよ」と言います。「友達にならない？」

レアはにっこりとほほえみました。「いいわよ！」

その後，レアとアンナは一緒に昼食を食べ，休み時間には，ボール遊びをしたり，なわとびをしたりしました。一日の終わりに，アンナはバスのまどからレアに手をふって別れました。「また明日」と言いました。

それ以来，レアとアンナは良い友達でした。二人は毎日一緒に遊びました。冬になると，雪の中を長い道のりを歩きました。雪がこおると，道をすべりながら下りました。あるとき，うちゅうをテーマにした理科のプロジェクトを二人でやりました。レアは，アンナと一緒に惑星のポスターを作るのが楽しくてたまりませんでした。

ところが，ある日をさかいに，アンナの行動がおかしくなりました。朝，レアが手をふっても，アンナは手をふってくれません。それにアンナは，算数の練習問題をとくときのグループを，変えてしまいました。お昼ご飯のときにも，ほとんど口をきいてくれません。

「ねえ，どうしたの？」とレアはたずねました。

アンナはため息をつきました。「あのね，あなたとはあまり遊んではいけないと思うの。友達のオードリーが，あなたのこと，変な人だって言ってたから。」

「そう。」レアは顔をしかめました。アンナと一緒にいると楽しかったのに。なぜほかの人たちの言うことがそんなに気になるのかな。

アンナは，レアとはまだ友達だと言いましたが，それ以来，レアと口をきいてくれなくなりました。レアはきずつかないようにとがんばりましたが，アンナがほかの子供たちと遊んでいる間，一人でいるのはつらいことでした。

そのうちに３年生が終わり，夏休みになりました。レアは楽しい活動をたくさんして，いそがしくすごしました。バレエのクラスや料理のクラスに行ったり，親友のエリーと一緒にさいほうのクラスに参加したりしました。

レアとエリーは，小さいころからおたがいを知っていました。エリーとは学校は同じでしたが，同じクラスになったことは一度もありません。時々エリーはレアの家に遊びに来ました。レアは，エリーの眼鏡とそっくりな，だて眼鏡を見つけました。それを見て，エリーは笑いました。

「夏がもうすぐ終わるなんて，信じられない」とエリーは言いました。「もっと会えたらいいのに。」

レアはにっこりとほほえみました。「そうね。」

もうすぐ新学年が始まります。レアは４年生になるのを楽しみにしていましたが，少しこわい気持ちもありました。たいていの場合，一人でいても大丈夫でしたが，クラスに友達がいない１年は長く感じられました。アンナが友達でなくなったときに感じた気持ちを思い出しました。さびしい思いはしたくありませんでした。

レアは，平安を求めて天のお父様にずっといのっていました。夏が終わると，希望を感じました。きっと大丈夫だと思いました。

新学年の最初の日，レアは新しい教室に入って行きました。

「レア！」

信じられませんでした。エリーがクラスにいたのです。

エリーはレアのところに走って行って，だきつきました。「同じクラスで良かった！　最高の一年になるわ！」

レアはにっこりと笑いました。つらいときでも，天のお父様は一緒にいてくださいました。エリーの言うとおり，今年は最高の一年になるだろうと思いました。●

このお話は，アメリカ合衆国での出来事です。

イラスト／アリッサ・タレント